

平成29年度第2回射水市協働のまちづくり推進会議 会議録

1 開催日時

平成30年2月23日(金)午前10時から午前11時30分まで

2 開催場所

射水市役所3階 301会議室

3 出席者

委員 奥 敬一会長、宮城澄男副会長、大坪久美子委員、春日哲男委員、
堺 勇人委員、瀬山和子委員、高橋清美委員、
(8名中、7名出席)

事務局 尾山市民生活部長、島崎市民生活部次長、島田地域振興・文化課長、
坂井課長補佐、橋本主任、川井主任

4 欠席者 和田美樹委員

5 議題及び会議結果

(1) 開会

奥会長挨拶

(2) 議題

平成29年度提案型市民協働事業の実績について

平成29年度提案型市民協働事業の実績について、事務局から説明した。

平成30年度提案型市民協働事業について

平成30年度提案型市民協働事業について、事務局から説明した。

地域振興会職員応援団制度の見直しについて

地域振興会職員応援団制度の見直しについて、事務局から説明した。

その他

射水まちづくり大学卒業生の取組状況について、事務局から報告した。

(3) 閉会

6 会議資料

資料1 平成29年度提案型市民協働事業の実績について

資料2 平成30年度公募提案型市民協働事業について

資料3 平成30年度地域提案型市民協働事業の概要

資料4 地域振興会職員応援団制度の見直しについて

7 会議の経過（要点）

(1) 平成29年度提案型市民協働事業の実績について

【委員】

「森であそぼう！里山さんぽ」のオリジナルプログラム開発について、審査会のときは、里山まで行かないで園の周りで自然を感じるプログラムを考えるとのことであったが、里山（ねいの里）まで行くプログラムであったのか。

【事務局】

一般の方を募る里山さんぽ事業については、3回ともねいの里へ行っているが、オリジナルプログラム開発については、園の周辺の自然が残っている散歩コースのような場所で自然に触れたとのことである。

【委員】

全ての園に募集して、金山保育園だけが応募したのか。

【事務局】

選定の方法までは確認はできていないが、今年度は調整ができた金山保育園のみでの実施であった。

【委員】

「イキイキ健康生活応援事業」については、審査会のときに健康と不健康のグレーゾーンにある方に実施してもらえれば良いとの意見もあったが、参加者はどのように決まったのか。

【事務局】

チラシなどの広報物を見て、自ら応募された方である。

【委員】

「イキイキ健康生活応援事業」については、生活習慣病の予防効果にも期待できると思うが、市内の病院と情報共有をしながら、通院している方々に対して市から事業を提言するなど幅広く募集してはどうか。受講者の拡大や健康推進に繋がると考えるが。

【事務局】

事業の実施者も参加者が少なかったことを反省していたことから、来年度は各地域で実施している100歳体操の場で周知し、参加者を拡大したいと伺っている。市としても、市民病院や保健センターとの連携を図れないかといったことを助言として伝えたい。

【委員】

補助金の額の割には勿体無いように感じる。大事な事業であるので、協働を大切に、積極的にターゲットの確保に努めていただきたい。

【委員】

例えば、保健センターなどから対象者に案内を送るといったことはできないのか。

【事務局】

個人情報の問題もあるので慎重に対応したい。ただ、周知不足でもあったので、多くの市民の方に参加してもらえるように積極的に周知していきたい。

【委員】

名簿を実施者に出すのは良くないが、市から案内することは問題ないと思うので検討してもらいたい。

【委員】

「イキイキ健康生活応援事業」について、学生は何人くらい参加していたのか。

【事務局】

学生は関係していないが、講師と福祉短期大学を卒業しNPOで活動している方がスタッフとして参加している。

【委員】

スタッフの人数は。

【事務局】

参加者の人数にもよるが、最低でも3人くらいはいる。

【委員】

参加者の人数が多くなれば、スタッフの確保も重要になってくる。協働について、行政は補助金の支出はしているが、人的な協力はなかったのか。

【事務局】

事業の実施については提案団体で行うが、事業の周知などは連携している。

【委員】

里山さんぽ事業のオリジナルプログラム開発について、園の周辺で実施したとのことであるが、新たに拠点として使えるような場所や山林の利用者からの情報提供などはあったのか。

【事務局】

具体的な話は伺っていないが、どこかに出かけないと自然体験ができないといった先入観を取りたいという思いから、園の近くの公園などで実施できればと提案団体からは伺っている。市内の公園でも自然が多いところを有効活用してもらえるように提案していきたい。

【委員】

公園の担当課も理解した上で対応するのか。

【事務局】

担当課には話は行っていないが、薬勝寺公園など子どもが安心して遊べる公園は数か所あるので、気軽に使用していただきたい。調整が必要になれば、担当課とも協議したい。

【委員】

公園は社会の中で子育てを進めていく上で重要な場であると思うので、良い公園造りといった視点からも連携を進めていただきたい。

【委員】

継続する場合、別の園を対象にするのか。

【事務局】

まだ調整は行っていないようであるが、実施する園を増やしたいとは伺っている。

【委員】

その場合、提案団体の協力がなければ実施できないといったことではなく、体験したノウハウを金山保育園に落とし込み、自ら実施できるように根付いていくことが目的であると思うが、それを前提で進めているのか。

【事務局】

遠足などの園内の行事でもこのノウハウを生かせることがプログラムの趣旨であると伺っているので、フォローアップも踏まえて継続していくと思う。

【委員】

地域提案の事業について、小学校との連携は、地域学習などの時間を利用したということか。

【事務局】

塚原小学校で実施しているプログラミング教室に塚原歴史の会の方がスタッフとして参加し、塚原の歴史的地図を用いて、プログラミングをしながら学べるきっかけになるとのことから積極的に取り組んでいるものである。

(2) 平成30年度提案型市民協働事業について

【委員】

採択されなかった「あいのかぜジェントルライド」事業について、このような趣旨の事業で県からの補助金がでる可能性がある。担当課と連携を図り、採択結果のみを通知するのではなく、フォローも行っていただきたい。

【委員】

点数が僅差の団体があり、点数では明確に優劣をつけられないので、提案事業の予算を見直していただき、補助の配分を考慮できればといった意見もあったが、明確に点数で区切るといったことになったのか。

【事務局】

点数が僅差であったので、補助の傾斜配分を考え多くの団体にできないか検討をした。公募提案の審査会の後、担当課とも協議を行った。その上で「あいのかぜジェントルライド」については、先ほどの意見でもあったが、7市2町が関わる港湾サイクルで、市からも補助金がでていいる。また、射水市をPRできる事業や経費などで協働できる部分が少ないことから、改めて見直していただきたいとの意見を伺った。もう一つのNPO法人むげんの事業については、地域振興会との意見統一が欠けていることから地域での認識を深める必要があるといった意見を伺った。以上のことから、上位3団体の採択となった。

【委員】

その意見も伝え、フォローを行っていただき、今後も進めてもらいたい。

【事務局】

本来であれば、基準点を超えれば採択したい思いである。今後は、予算確保についても余裕をもって対応したい。

【委員】

黒河地域振興会が提案している「たけのこふれあい事業」と「黒河地区竹林環境整備事業」の棲み分けはできているのか。

【事務局】

「たけのこふれあい事業」については、たけのこを用いて三世代交流などを実施するソフト的な事業形態であり、「黒河地区竹林環境整備事業」については、荒廃が進む竹林を整備し遊歩道を設置するといった環境整備のハード事業と伺っている。

【委員】

2事業実施することは問題ないのか。

【事務局】

事業の目的は異なるので問題はない。

【事務局】

審査会の場で実施した事業の報告会についての提案があったが、来年度はできるように検討していきたい。

(3) 地域振興会職員応援団制度の見直しについて

【委員】

各地域振興会への応援団名簿の配布は必要である。ただ、出向いてもらわなくても電話で解決できることがほとんどである。あまり深く考えないで、気軽に相談できる体制を整えれば良い。

【委員】

現制度が抱える課題の中で、職専免か、有給休暇かといったことを挙げているが、今後の体制をどのようにするのか。

【事務局】

新たにボランティア休暇の創設も検討し、職員が出やすいような環境整備を考えていきたい。

【委員】

職専免ではなく、休暇といった位置付けであるのか。そこがはっきりしていれば参加しやすくなるのではないか。

【事務局】

そういったことも踏まえて検討していきたい。

【委員】

それぞれの制度は良いと思う。特に個人ではなく、チームでの体制が良い。参考とした自治体はあるのか。

【事務局】

全国でいくつかチーム体制で取り組んでいるところはあるが、多くは業務として行っている。射水市としては、業務ではなくボランティアとして行ってほしい。

【委員】

職員一人ひとりの自覚しかないと思う。若いときから地域の課題を身に着ける必要があるのでは、是非行っていただきたい。例えば、消防分団員の成り手不足があるが、職員に採用されてから数年は消防分団員として活動していただきたい。何かに所属し、ボランティアを実施するなど自覚を持って取り組んでいただきたい。

【事務局】

チームを作れば互いに力を補いながら複数の職員で対応できると考える。若いときから地域に入っていき、地域と連携を取っていけたらと考えている。

【委員】

企業の例を挙げれば、年に数回はボランティアを行うといった取組を行っている企業もある。ボランティア参加職員に対する査定にも影響するのではないか。

【事務局】

査定については、地域の方もボランティアで取り組んでいるので、そのバランスを考える必要がある。ただ、現在実施している人事評価の中で、地域貢献といった項目は設けている。

【委員】

人事評価で評価することで浸透していくのではないかと。これからの管理職になる方にはしっかり意識していただきたい。若手職員に対して、このような指導ができる資質を持っていただきたい。これは、民間企業も同様である。

【委員】

現在、地域振興会で事務を行っているが日々の事務処理で大変である。その中でボランティアで来られても、どのように対応すればよいかもわからない。今は困れば地域振興・文化課に相談している。どのような立ち位置で来られるのかわからない。行事だけの参加なのか、今後の繋がりがあるのか、明確にしていたかないと対応に困る。

【事務局】

職員応援団の見直しで大事に考えていることは市民協働といった観点から、市の職員が地域を主体的に動かすことは考えていない。地域が主体的なことに対して、協力、サポートをしていきたい。この案については、地域振興会からの提案に対して動いていくことを想定している。研修については、地域振興会の受け入れ態勢もあるので、協議しながら進めていきたい。具体的な協力事項の区分けもできていないので、これから検討していきたい。

【委員】

チームは課を超えてのチームなのか。

【事務局】

そうである。

【委員】

このシステムでは連携が難しいと考える。相談があった場合、課が異なることで調整し難いのではないかと。

【事務局】

アンケートを実施し地域の希望を伺った上で、職歴、年齢などを考慮し、地域格差が生じないように組織を形成していきたい。

【委員】

地域振興会を立ち上げ、行政との連携が重要であると考えているが、その窓口はこの課が対応しているのか。

【事務局】

地域振興・文化課である。

【委員】

どうしても業務での取組であると思ってしまう。今は人口減少時代の中でパブリックサービスを行政だけで行うといった発想が成り立たなくなっている過渡期であると考えている。それに対し地域振興会を立ち上げたことは良いことである。地域振興会の自立、行政との遣り取りが重要であるので、その窓口になる部分はコアになる部分と考える。現行制度はシステム上の機能不全が起こっている印象で、それをボランティアで行えば責任の重みも変わる。そういったことから専門部署が業務として関わるものと考えている。個人の力量や熱量で関わるのは不公平であるし、誰が行ってもシステムとして成り立つようなものが必要ではないか。過渡期であると思うので他県には無い前例を射水市が作らなければならないかもしれないし、それができれば全国的にも良い例になるのではないかと思う。

【事務局】

チームとして、リーダー、副リーダーが中心となり連絡調整するが、あくまでもパイプ役である。それを受けて、業務として行う必要があれば担当課が対応する。行政と地域とのパイプ役といった位置付けである。

【委員】

現状として地域振興会からの要望はどのようなものがあるのか。

【事務局】

把握できていないので、地域振興会と意見交換を行いながらどのような業務ができるのかについては、今後の検討課題であると考えている。

【委員】

どのような業務があるかについては、参加する職員にとって重要なことであると思う。アンケートを実施する段階で周知できればいいのではないか。

【事務局】

基準を整理した上で進めていきたい。

【委員】

内容が専門的な仕事であれば業務であるし、地域住民と一緒にやって行い繋げるところは繋ぐというのであれば、市民はボランティアで、職員は休暇では不公平であることから、ボランティアとして関わっていく仕組みであると思う。ただ、それを評価することが重要であり、積極的に地域に関わり地域状態を良くすることは十分に評価されると明確にすることが重要であると感じた。

【委員】

射水市型の市民協働はかなり良いと感じている。他市でも本市を目指して進めてきているのではないかと。島根県の市でも先進的に取り組んでいるようだ。やはり職員のノウハウが必要となるのではないかと。各地域に専門職員を配置し、地域と行政が共に動いていかなければならない。職員の意識改革のために、地域振興会と市の幹部との意見交換を頻繁に行えば良い。そして、議員も各種審議会などに加わってもらい、一緒に物事を決めていくべきである。

【事務局】

以前は加わっていたいただいていたこともある。

【委員】

大事な意見である。本来は地域の課題を取りまとめて、一緒にこれからを考えていく役割であるが、それが浮いてくるのはどこでもあると思う。色々な形態があると思うが検討していただきたい。先ほどの意見でもあったが、地域担当職員の考えは大切である。どういった役を担うかを地域振興会と対話して決めて、専従で地域のことを考えるとといった仕事を検討していく段階であり、市民、行政、議会の関係性を造っていただきたい。

【委員】

この案は市で考えたのか。地域振興会とどんな仕組みが良いのかを一緒に考えて作ることが大事である。

【委員】

今後も調査をして、地域振興会からの意見もマッチングした情報を取りまとめていただき、この場で議論できればと思うのでよろしく願いしたい。

(4) その他

【委員】

人づくりが重要である。他の自治体で先進的な事例を調査していただきたい。

【委員】

現地視察や講師を招いての講演なども開催できれば、議論も深まっていくのではと考える。可能であれば、来年度に調整していただきたい。

【委員】

地域では一つの行事を行うのも大変である。交流が少なくなっている現状があり、これからの地域振興会が担っていくことは、家庭でできないことを地域が助け合って、育てていくことであると思う。